## 令和6年度 学校評価書

【評価基準】 A:80%以上達成 B:60%以上達成 C:60%未満

【アンケートの評価規準】◎:80%以上が肯定 ○:60%以上が肯定 △:60%未満が肯定

項目	小項目(重点目標)	設問番	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			Í
								肯	定	否	定
		号						1	2	3	4
	○生きて働く知識と 技能 ○思考力・判断力・表 現力 ○主体的・対話的で 深い学び		児童が目当てをもって主体的に学習に取り組む指導や特別支援教育の視点に立った指導を行い、分かる楽しい授業を心掛けた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)		○設問1では、昨年度から保護者・児童・教職員(以下、三者)とも肯定率が上昇しました。国 語科を中心に研究を進め、主体的・対話的で深い学びへと学習を展開する努力をしている。	教職員アンケート	0	14%	82%	4%	0%
よく		1			児童の1/7が、学びの楽しさを味わえていないという結果を真摯に受け止め、引き続き個に応	児童アンケート	0	46%	41%	10%	3%
考					じた学びを模索していく。	保護者アンケート	0	39%	59%	2%	0%
え、			学力の定着を目指し、思考力・表現力の育成や基礎・基本の理解を図ることに努めた。	A L	の効果が表れているものと思われる。とはいえ、昨年度と同様に約20%の児童が「分からない」と回答していることを受け止め、更なる授業改善を図りながら、学級担任や専科教員が協  カして、個に応じた丁寧な指導・支援をしていく。	教職員アンケート	0	25%	68%	7%	0%
ょ		2				児童アンケート	0	47%	30%	20%	3%
<u> </u>			目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)			保護者アンケート	0	27%	62%	10%	1%
学ぶ			家庭と連携し、家庭学習が身に付くように努めた。		を工夫したり児童が学習に取り組む意識を高めたりしながら、引き続き、学校と家庭が連携し  て見届けを行い、適切な学習習慣の定着を目指していく。 	教職員アンケート	0	27%	73%	0%	0%
子		3				児童アンケート	0	57%	28%	13%	2%
			目標値: 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)			保護者アンケート	0	27%	57%	15%	1%
	※は教職員のみへの 働き方に関する設問	*	実効性のある業務改善に取り組み、児童一人一人に向き合う時間の確保や ワークライフバランスに努めた。	Α	〇昨年度から25%上昇し、業務改善と教職員の意識改革の成果が表れている。今後も、「勤務時間と職務の縮減」と「教職員としてのやりがいの維持」のバランスを取りながら、業務改善の努力を続けていかなければならない。	教職員アンケート	0	31%	59%	10%	0%
	○認め合い、支え合い、高め合う集団 ○いじめを許さない 子どもと教師 ○人権・同和教育、 特別支援教育		家庭・地域と連携して心のこもった挨拶ができる児童を育てることに努めた。	A	○設問4の三者とも上昇し、設問5は、児童は横ばいであったが、保護者がわずかに減少している。挨拶については、運営委員会や6年生有志による呼び掛け、教職員の指導等を積極	教職員アンケート	0	27%	60%	13%	0%
		4	· ·		的に行った。地域の皆様への挨拶をより積極的に行うよう、声を掛けていきたい。	児童アンケート(家族)	0	64%	30%	5%	1%
					ラブルや悩みを乗り越えて学校生活を送っている様子がうかがえる。学年の発達段階に合わ	児童アンケート(地域)	0	74%	20%	5%	1%
		5				保護者アンケート(家族)	0	40%	51%	8%	1%
			目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)			保護者アンケート(地域)	0	37%	41%	18%	4%
			学級・学年などの活動を通して、認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを推	1 .  ;	えていることが分かる。保護者の方々の学校教育に対する協力的な姿勢が、子どもたちの成長に大きく寄与していることに感謝するとともに、引き続き家庭と学校とが連携していければ	教職員アンケート	0	31%	62%	7%	0%
思い		6	進した。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1·2)			児童アンケート	0	51%	42%	5%	2%
や						保護者アンケート	0	52%	45%	3%	0%
りの			人権・同和教育、特別支援教育の視点を根底にして、教育活動全体を通じて、	A か	〇設問9(心配なこと)では、昨年度とほぼ横ばいであった。1クラスにおよそ4、5人が「心配ごとがある」ことになり、その内容や経緯は様々である。学級担任は、一人一人の児童としっかりと向き合い、個に応じた対応に引き続き努めていきたい。	教職員アンケート	0	30%	70%	0%	0%
あ		7	豊かな心をもった児童を育てるようにした。 			児童アンケート	0	69%	27%	4%	0%
る 子			目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)		○設問9(相談体制)の児童では、昨年度とほぼ横ばいであった。安定した学校生活を送っている児童が多いと言えるが、一方、「相談していない」児童が14%いる。担任を含めて様々な立場の教職員が、児童との信頼関係を深め、児童が「困ったときにはいつでも相談できる・相談を聞いてくれる」という安心感に包まれるように、さらに努力していきたい。 ○「相談室」に外部委託の相談員がいるので、育児やご家庭での悩み等、何でも気軽に活用いただけるよう引き続き工夫したい。	保護者アンケート	0	55%	44%	1%	0%
-			児童・保護者が相談しやすい体制を整え、いじめ・不登校・非行問題などへの積			児童アンケート(楽しさ)	0	67%	26%	4%	3%
			極的対応を心掛けた。 			保護者アンケート(楽しさ)	<del>-</del>	47%	45%	7%	1%
		8				児童アンケート(心配ごと)	<del></del>	63%	21%	11%	5%
		9		Α		教職員アンケート(相談体制)	0	31%	66%	3%	0%
						児童アンケート(相談体制)	O	51%	22%	13%	14%
			日極防. 粉聯号 旧亲 促进者の000(以上が失党(1.0)			保護者アンケート(相談体制)		42%	53%	4%	1%
	〇楽しく分かる授業では、児童				  ○本校では、国語科を中心にして、的確な読み取りや豊かな語彙力を基に、自分の考えを形						マの
	○学びを楽しみ、家庭学習の	大切さ	とたゆまぬ努力をすること、家庭との協力、様々な様相が必要だが、先生方はよくがんばっている。 切さ、学校の協力支援も必要である。 り授業など、今にあった教育がなされ、子どもたちも健やかに生き生きとしているように見える。 中身・内容だと考える。集中力とその習慣性が大切と思えるので、ただ時間をこなすことより視点を変えて わずかな時間にも宿題に取り組む姿に、家庭学習の大切さを指導されていることが分かった。		授業に落とし込み、全員の児童にとって「楽しく分かる授業」を目指して取り組んでいきたい。						
学校関	○タブレットを使った授業、英 ○家庭学習について、時間よ 判断していってほしい。	り中身			〇学級担任はもとより、児童の教育に携わる全教職員が、それぞれの立場を生かして、児童で体的で実のある連携を充実して、それぞれの役割を自覚しながら一体となって健全育成を引き			。加えて	、家庭	や地域の	上の具
係者評価	〇挨拶はできていると思う。 〇朝、見守り隊で通学路に立て 〇挨拶は、子どもたちの方から		るが、挨拶ができていない子、できる子の差がある。 まれるが、家庭、地域、学校とも、まず大人が先取りし、手本を見せるべきだと思う。 ・どもたちの意識が高いのは、児童も受け入れてくれていてうれしい。	学校の対	○本校が行っている「I♥岡小プロジェクト(アイ ラブ 岡小プロジェクト)」の中の一つに、「広けに取り組んでいる。校内だけでなく、登下校においても、多くの児童が元気で気持ちのよい挨打当番の保護者の皆様などへの進んで挨拶できるよう言葉掛けをするとともに、教職員がその	<b>災をしているが、よ</b>	り多くの	児童が			
委員の	○朝の登校時、見守りをしてい ○集団登校の際、上級生が下 ○思いやりの心が醸成されて	いるが 級生 いるこ	、高学年の児童が低学年への優しさを感じる。挨拶もよくできている。 の様子を注意して見ている。児童が見守り隊の人へ元気に挨拶している。 とを実感した。		○「I♥岡小プロジェクト(アイ ラブ 岡小プロジェクト)」では、「増やそう、違う学年の友達」として縦割り班での毎日の清掃活動や月に一回の遊びをしたり、「友達のキラリ発見」として友達のいいところ探しの活動をしたりしており、引き続き思いやりの心を育てる取組を進めていきたい。						
所 見	言えないが、これからもできる 〇保護者や教職員の認識より		いもの(人間関係や、特に人への思いやりへの思いやりなど)は、主に家庭環境から育っていくように思う。大きな事はらもできる事はお手伝いしていこうと思っている。 D認識よりも悩みを抱えている児童が多いことが気になった。 心配ごとがあっても、それを十分に表現できずに抱え込んでしまったり、家庭内でもどう解決していいのか、表面化し らのが多いのだろうか。		〇近年、児童や家庭が抱える問題や悩みも多様化している。学校としての役割を再認識し、地域や他の相談機関とも連携しながら、きめの細かい 応をしていきたい。						

項目	小項目 (重点目標)		評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策			アンケート結り			<del></del>
						評価資料	評価	肯	定		
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,							1	2	3	4
	〇目標に向かう意志 力 〇気持ちのよい挨拶 と望ましい生活習慣 〇体力つくりとたくま しい体		家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ごはん運動」、家の手伝い、整頓等の基本的な生活習慣の定着に努めた。	А	○設問10「早寝・早起き・朝ごはん」では、児童の結果は横ばい、保護者の方々の評価はやや悪くなっている。近年は、睡眠時間が足らなかったり効率的な時間の使い方ができなかったりする児童が一定数見受けられ、望ましい生活習慣が身に付きにくい環境にあるようである。ゲーム機やスマートフォンを使用して、ゲームや動画視聴、SNSに費やす時間が多くなっているのが最大の原因のようである。家庭で「ゲーム機やスマートフォンの使い方の約束」を話し合い、約束を守ることで効果を上げている例もたくさん見られるため、地道に児童の実態	教職員アンケート	0	28%	69%	3%	0%
		10				児童アンケート	0	49%	33%	13%	5%
			目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)		に応じた指導を継続し、家庭と連携しながら対応していきたい。	保護者アンケート	0	43%	45%	11%	1%
粘			望ましい食習慣の形成や自らの健康に関心をもたせ、健康づくりや体力つくりに励むように配慮した。	の 図 A 2 き	図的に屋外での群れ遊びをする機会を増やしており、児童の体力と免疫力を高めるために、 2~3年の長いスパンで計画的に指導を積み重ね、心も体もたくましい岡田っ子を目指していきたい。	教職員アンケート	0	33%	57%	10%	0%
り強く		11				児童アンケート	0	48%	32%	14%	6%
やい			目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)			保護者アンケート	0	38%	41%	20%	1%
めく			家庭や地域と連携し、登下校の安全確保や不審者対策等による安心・安全な 学校づくりを推進した。		○設問12「交通ルールの順守」では、昨年度と同様に児童の意識は高く、実際の登下校の様子や自転車の乗り方・ヘルメットの着用の様子を見ても安全意識の高さはうかがえる。最近は、ヘルメットをかぶらずに自転車に乗っている児童は見なくなった。とはいえ、命を守る指導にやり過ぎはなく、引き続き、学校と家庭・地域が連携して、繰り返し巻き返し指導していきたい。  ○設問13「安全な環境づくり」では、教員が毎月安全点検を行い、危険箇所の早期発見に努め、優先順位を決めて修繕等を行っている。今年度は、より一層教職員の肯定率が高まった。引き続き注意深く点検していきたい。	教職員アンケート	0	31%	55%	14%	0%
子		12		Α			0	87%	12%	1%	0%
			目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)			保護者アンケート	0	39%	58%	3%	0%
		4.0	定期的な点検を行い、施設・設備の安全管理に努めた。			教職員アンケート	0	30%	63%	7%	0%
		13		A		保護者アンケート	0	39%	58%	2%	1%
	家庭・地域との連携		目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(1・2) 学校の情報発信をするとともに保護者や地域住民との連携が図られている。	すっていた C 孝木仕方し	ければならないと考えている。その中でも、学校教育への関心度が高いのは、岡田小学校の保護者の皆様の教育力の高さを物語っていると言える。  〇設問15では、家庭や地域からの声に、「迅速に」「誠実に」お答えしていくことを前提として、教職員全員で役割分担をしながら取り組んでいます。教職員の手応えとしては、昨年度と同様に高い自己評価となっておりますが、個別のことについては、十分な対応ができておらず、保護者や地域の方々にご迷惑やご心配をお掛けしていることもありました。今後もそれらの反省を生かして、しっかりと情報を共有し連携を図っていく中で、信頼関係を構築していきたいと思います				<del></del>		
家						教職員アンケート(情報発信)	0	38%	54%	8%	0%
庭 · 地 域		14 • 15				保護者アンケート(関心)	0	46%	48%	6%	0%
			目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(1・2)			教職員アンケート(対応)		45%		Ο%	
学校関係者評価委員の所見	○早寝・早起き・朝ごはんで、食べていないのが心配。 ○早寝・早起き・朝ごはんで、食べていないのが心配。 ○早寝・早起き・朝ごはん体力づくりについて、児童と保護者とのズレを感じる。 ○朝ごはん抜きだと15時間程度何も食べないで勉強(体力つくりを含めて)することになる。保護者の協力が必須。 ○体力つくりには、「早寝・早起き・朝ごはん」が不可欠。家庭とも連携しながら、指導の継続をお願いしたい。 ○心身の健康を支えるのは体力であり、今後とも基礎的な体力つくりに努めていただきたい。 ○昼休み時間中、児童が運動場で元気に遊んでおり、活気にあふれている。 ○最近の家族構成からみて、専業主婦割合が以前より少なく学校任せになっている感じ。体み(土・日)には、親子又は友人同士で公民館、グラウンド、公園で楽しんでほしい。 ○交通ルールの順守について、児童と保護者に乖離があるのは、児童たちが理解しているつもりでも、車の運転等の経験がある大人の目から見ればまだまだできていないという表れだと思われるので、地道な指導の継続をお願いしたい。 ○教通ルールの順守について、見童と保護者に乖離があるのは、児童たちが理解しているつもりでも、車の運転等の経験がある大人の目の見つりをしていて、2、3列で話しながら歩く児童が多い。ヘルメットを被らず、両手を離して自転車に乗っている児童を見かけたこともある。登下校の歩き方や自転車の乗り方については、繰り返し指導をお願いしたい。 ○交通ルールの順守については、登校時は車の方が気を遣ってくれているので事故はないと思うが、子どもも車に反応する必要がある。 ○委近心配になるのは、不審者の出現情報があることで、外出時には注意を払いたい。 ○登校時の交通安全の見守りをされている地域の皆様には頭が下がる。 ○学級通信を発行している学級があり、感心するが、負担になりはしないかと少し心配。 ○保護者の方々と地域の中心的な方々とのジェネレーションギャップを感じる。互いの価値観や生活観の相違からトラブルも。そのためにも情報共青やふれあいや共同作業などで、距離感を縮めてほしい。 ○一番、家庭と地域との連携が難しく感じる。 ○次後持つ方々と地域の中心的な方々とのジェネレーションギャップを感じる。互いの価値観や生活観の相違からトラブルも。そのためにも情報共青やふれあいや共同作業などで、距離感を縮めてほしい。 ○予選の方とと地域の背に対しているである。 ○本理の方はとかばよりで見まります。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			学校の対応	○コロナ禍が明け、学校行事については、年度当初に予定していた内容を滞りなからの参観者に児童の学びの様子を見ていただき、適宜ご意見をいただきながらつ、内容を改善したり工夫したりしていきたい。 ○本校の全教職員は、それぞれの立場や役割を自覚し、全力で務めを果たしてし支援が不十分であり、保護者の方々としっかりとした共通理解の上に立った関わり営みを謙虚に振り返り、迅速に対応・改善していくことによって、その務めを果たしからの励ましや温かい言葉、児童の学びを温かく見守る姿勢に感謝したい。 ○本校区は教育力が高く、地域の方々や保護者による見守り活動のおかげで、登定期的な登下校指導をしている。不審者事案の発生時には、マチコミメールを活りの都度強化していただき、大変有り難い。交通ルールの順守については、日々のが、今後もより具体的に、効果的な指導に努めていきたい。 ○今後も、できる限り子どもたちの日々の様子をホームページや通信等を通じて、信については決して強要するものではないため、発行している学級担任は負担に成に携わってくださっている地域の方々に、児童の学びの様子をお伝えする機会に、親交を図ることで、高い教育力を生かしていきたい。	はがら、今後も各行事等の学習効果や内容を吟味しつとしている。しかしながら、一人一人の児童への指導・ と関わりができていないこともある。私たちは、日々の・ 果たしていきたいと考えている。保護者や地域の方々・ がで、登下校の安全が図られている。教職員も分担していを活用して、情報発信をしているが、見守り活動をそ日々の学級指導や通学班会等で指導を継続している。 通じて、お知らせできればと思っている。ただ、学級通 負担には感じていない。また、保護者や児童の健全育					
	〇スポーツ(地域行事)を復活し、約		持ちが多いので安心した。いろいろな意見もあるが今までどおり丁寧にお答えしていけばいい。								